

奨励賞



設計者

今津康夫

大阪府建築士会、ninkipen! 一級建築士事務所

戸建住宅(専用)

奈良県生駒市

撮影...河田弘樹

4n

構造・階数
木造、一部鉄骨造
地上3階建て

敷地面積
233.12㎡

建築面積
64.77㎡

延床面積
106.14㎡

竣工
平成25年3月9日



A



B

- A 南面外観と開口部
- B 東面外観。グラウンドレベルはエントランスポーチと子どもたちの遊び場を兼ねたピロティ
- C 子どもたちもくつろぐインナーバルコニー
- D キッチンより生駒の風景を見る
- E 2階LDKより室内を見る。左手にキッチン、正面に3階にあがる階段。キッチントップに合わせてキッチンの開口は長く切り取られている
- F 北面外観(夕景)

写真撮影...河田弘樹



C



D

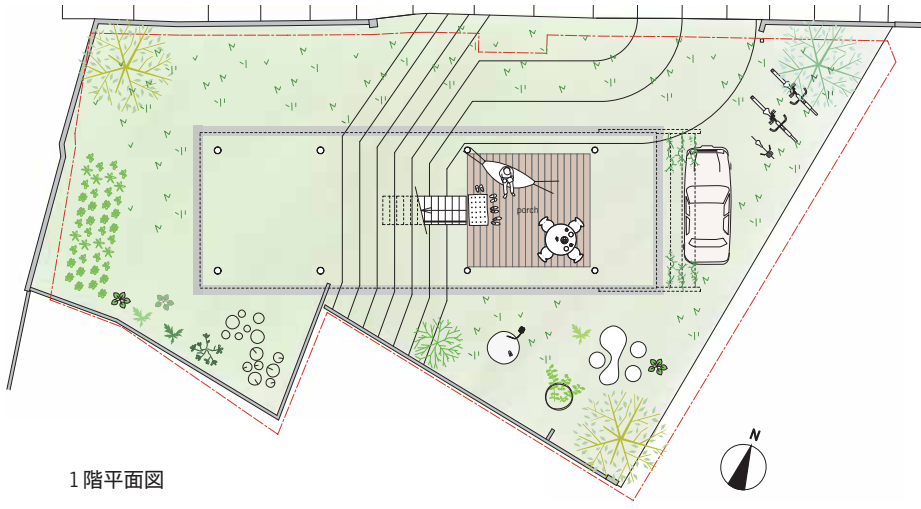
選評

生駒山麓の急斜面に立つ小住宅である。2段に分かれた極小の造成地の擁壁を撤去し、その特異な土地の形状に合わせたピロティ型である。ピロティ下のポーチから登ると、1階は長方形の回遊式平面となっており、エントランス、ダイニング、キッチン、水まわりと続く。さらにダイニングから階段を登ると、夫婦の寝室と子ども部屋になっており、また、子どもの机を介して下のダイニングへと繋がる吹き抜けを持つ。2階は与条件に対して空間不足が否めないが、良い器として今後も改良が試みられるだろう。

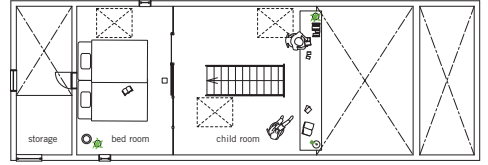
見晴らしの良い場所にしては、とれるだけの開口を無理に開けようとしていない。室内からは、その開口が部屋の場面に従っ

て意味あるように切り取られていることがわかる。たとえば、キッチントップはこの家の平面長手の半分以上の長さを持つが、それに合わせて開口も長く切り取られている。この長い開口から見える生駒の風景がダイニングとキッチン空間を豊かな場所になっている。インナーバルコニーでは、妻側に開口をとって美しいベキところを、あえて両サイドに大きな引き戸をつけて、開放性を確保している。このような処理について審査員の意見が分かれたが、開口から見えるものを内外双方の視点から考えた場合、それら両者間のギャップを調和させようとする設計配慮が感じられた点を評価した。

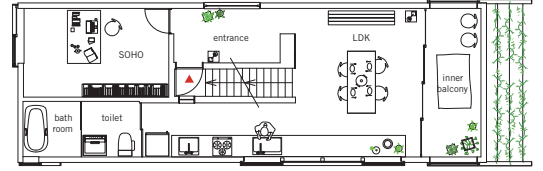
(中谷礼仁)



1階平面図



3階平面図



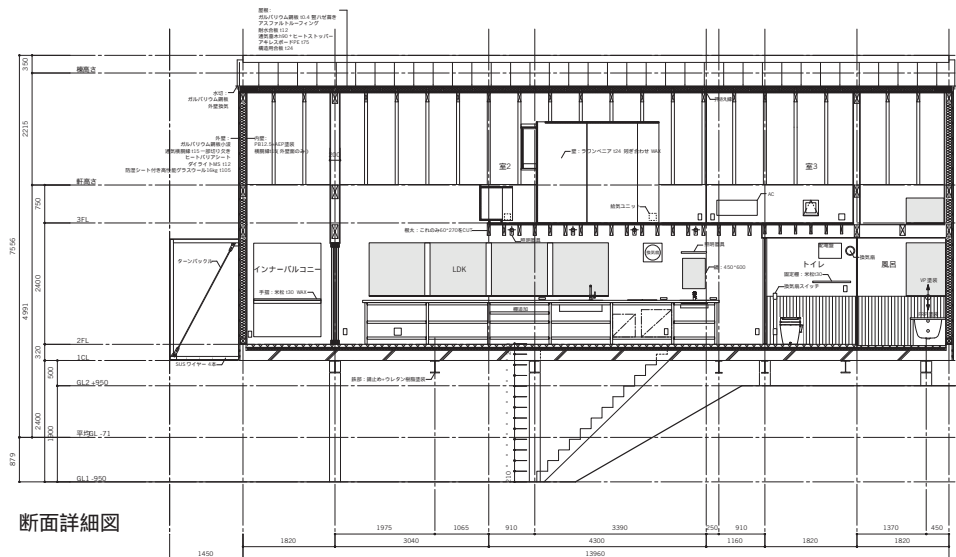
2階平面図



E



F



断面詳細図